

ISJ海外セミナーをハノイで開催

～ベトナム損害保険市場の健全な発展のために参考となる日本の取り組みを紹介～

一般社団法人日本損害保険協会(会長: 船曳 真一郎)では、公益財団法人損害保険事業総合研究所(以下: 損保総研)と共に、2025年度のISJ海外セミナー(※1)を、2026年2月3日(火)にハノイ(ベトナム)で開催しました。ハノイでのセミナー開催は、1998年、2005年、2009年、2013年、2020年に続き6回目となります。(2020年はオンライン開催)

セミナーには、ベトナムの損害保険会社だけでなく、保険監督当局である財務省保険監督庁(Insurance Supervisory Authority, Ministry of Finance、以下: ISA)や、ベトナム損害保険協会(Insurance Association of Vietnam、以下: IAV)、ベトナム損害保険開発院(Vietnam Insurance Development Institute、以下: VIDI)の役職員等、約120名が参加し、多くの質問が寄せられました。

セミナーでは、ORSA(Own Risk and Solvency Assessment: リスクとソルベンシーの自己評価)や、EV(電気自動車)の保険カバー、原子力保険、業界ベースのデータベースの活用、自然災害リスクに関するプロテクションギャップの縮減等、事前調査により選んだベトナム損害保険市場で対応を求めるべきトピックを上げました。講義では日本の制度や実務を紹介するだけでなく、課題解決案を示すことにより、業界関係者の認識・理解を深め、検討進捗の契機としました。

講師は、当協会の会員会社3社(三井住友海上社、損害ジャパン社、東京海上日動社)の他、金融庁監督局保険課、日本原子力保険プールから派遣いただきました。金融庁の講義では、ORSAが、保険監督者だけでなく損害保険会社の経営管理にも有用であることを伝え、各損害保険会社の積極的な対応を促していただきました。

(詳細は添付プログラムご参照)

当協会とIAVは、2009年9月に、情報交換や人的交流を目的とした協力覚書(MoU)を締結しており、今回のセミナーは、これに基づく協力事業としての位置づけも持っています。

開会式では、当協会の大知久一専務理事、IAVのゲン・スイアン・ヴィエト(Nguyen Xuan Viet)会長、在ベトナム日本国大使館の伊藤直樹大使から挨拶がありました。大知専務理事からは、「アジアが世界経済成長の原動力としての重要性を増し、またルールや規制のグローバルなコンバージェンスが進むにつれ、ベトナムや日本を含むアジアの損害保険業界は、これまで以上に重要な主導的役割を果たし、国際的な地位と影響力を強化することが求められている。今回のセミナーをはじめ様々な交流を通して両国市場の相互理解、協力がさらに深まることを望んでいる。」として積極的な参加を呼びかけました。IAVのヴィエト会長からは、

「ISJを始めとした日本の皆さんの貴重な協力、情報共有により、ベトナム損害保険市場の発展に実践的な貢献がなされてきた。これはまた、両者間の友好的で信頼に満ちた持続可能な協力関係を強化する重要な基盤を形成している。」として謝意が表されました。

IAV会長や、ISA副局長、VIDI副院長等からも、講義について質問が寄せられる等、現地側の大きな関心、期待がうかがわれました。

閉会式では、損害保険の後藤浩之理事長とIAVのブイ・ザー・アン(Bui Gia Anh)事務局長から挨拶がありました。後藤理事長は、「本セミナーでは、ベトナム損害保険協会(IAV)との協力のもと、ベトナムの発展に参考となるテーマを選定した。日本の損害保険業界における経験や取り組みが全て貴国に直接適用できるとは限らないが、それらの背景から得られる知見は貴重であり、各事例の根底にある基本的な考え方、ベトナムの改革推進に役立つと考える。」として、セミナーで学んだことの活用を呼びかけました。

夕刻には、ISJ卒業生同窓会を開催し、ベトナムのISJ一般・上級コース卒業生と交流を深めました。

さらに、セミナー翌日には、IAV、ISA、VIDIを訪問し、日・越業界間の今後の協力について意見交換を行いました。

当協会では、今回のセミナーがベトナム損害市場の健全な発展につながるよう、各講義で高まった課題解決の機運を捉え、実務家レベルでのワークショップ等を通して、引き続き、情報提供等の支援を継続してまいります。

(※1)当協会と損保総研では、国連貿易開発会議(UNCTAD)の勧告とアジア最大の国際保険会議である東アジア保険会議(EAIC)の要請を契機に、東アジア各国・地域に対する保険技術協力・交流プログラムとして、1972年から毎年、ISJ(日本国際保険学校、Insurance School (Non-Life) of Japan、以下:ISJ)を開講しています。ISJでは、各国・地域の損害保険会社、保険監督官庁等の職員を日本に招いて行う「一般コース」、「上級コース」(※2)の他に、1993年から、日本の損害業界の経験を伝え、現地損害業界の継続的で健全な発展に役立てていただくとともに、両国業界関係者の相互理解および交流を深めることを目的として、日本から講師を派遣して各地のニーズに応じたテーマで講義を行う「海外セミナー」を実施しています。

(※2)ISJ一般・上級コースには、ベトナムから延べ90名が参加しており、多くの卒業生がベトナムの損害市場で重要なポストに就いて活躍しています。



セミナー開会式で挨拶する損保協会大知専務理事

添付:

1. 日本国際保険学校(Insurance School (Non-Life) of Japan: ISJ)の概要
2. 2025年度ISJ海外セミナー(ハノイ)プログラム

日本国際保険学校(Insurance School (Non-Life) of Japan: ISJ)

■東アジア各地域の損保業界と相互理解、交流強化を目的とした保険技術協力プログラム

2026年2月現在

	一般コース	上級コース	海外セミナー
1. 設立(開講)年	1972年(昭和47年)	1991年(平成3年)	1993年(平成5年)
2. 設立経緯	国連貿易開発会議(UNCTAD)の勧告および東アジア保険会議(EAIC)の要請を受けて関係委員会で検討。本邦損保業界が東アジア地域の損保業界に対して行う純粋な海外技術援助研修プログラムとして発足した。	1987年(昭和62年)の保険審議会答申指摘事項(ISJの充実)を契機に関係委員会で検討、既存の「一般コース」とは別に中堅、管理職層の者を対象としたワークショップ形式のより高度な研修プログラムとして発足した。	1992年10月の協会理事会で了承された業界課題「国際交流の推進」を具体化するものとして、ISJ参加地域に講師を派遣し、現地で関心のあるテーマについてセミナーを行うプログラムとして設けられた。
3. 目的	東アジア地域の損保事業関係者に対し、損保に関する教育・研修を行い、同地域の損保市場の健全な発展に寄与するとともに友好・親善を図る。		
4. 主催者	一般社団法人日本損害保険協会および公益財団法人損害保険事業総合研究所 [共催]		
5. 対象地域	合計16地域 (ISJでは、国名ではなく都市名で表記しています) 【経緯】バンコク/香港/ジャカルタ/マニラ(1972年~)マカオ(1988年~)、プノンペン(1999年~)、クアラルンプール/シンガポール(1973年~)、北京/台北(1989年~)、ウランバートル(2007年~一般コースのみ)、ソウル(1978年~)、ハノイ(1994年~)、ウランバートル(2015年~上級コース追加)、バンダルスリブガワン(1986年~)、ネピドー(1996年~)、ビエンチャン(2016年~一般コースのみ)、ビエンチャン(2025年~上級コース追加)		
6. 参加者枠 (受入限度)	30名 <3名>北京、マニラ、プノンペン、台北 <2名>バンコク、ハノイ、ジャカルタ、クアラルンプール、セードー、ウランバートル <1名>バンダルスリブガワン、香港、マカオ、ソウル、シンガポール、ビエンチャン	32名 <3名>バンコク、ジャカルタ、クアラルンプール <2名>北京、ハノイ、セードー、香港、マニラ、プノンペン、ソウル、シンガポール、台北、ウランバートル <1名>バンダルスリブガワン、マカオ、ビエンチャン	1都市あたり100名程度を目安
7. 卒業生数	1,668名(第1回~第51回) うち保険監督官庁からの参加者数は283名	723名(第1回~第35回) うち保険監督官庁からの参加者数は145名	約6,360名(第1回~第32回)
	*一般・上級コースとも、卒業生からは、各地域の保険当局、業界の主導的立場に立つ人物を輩出		
8. 場所 / 期間	東京／毎年、秋(通例11月~12月)に約2週間	東京／毎年、春(通例5月~6月)に約2週間	ISJ参加地域／毎年、1~2地域で開催
直近の開催実績	2025年11月12日~11月18日(オンライン)	2025年5月28日~6月3日(オンライン)	2026年2月3日(対面)
	2025年11月26日~12月2日(来日)	2025年6月11日~6月17日(来日)	開催地域:ハノイ(ベトナム)
	テーマ:「損保業界が社会の安心・安全に貢献し続けるための業務品質と専門的知識・スキルの向上」	テーマ:「レジリエントで持続可能な損害保険事業を行うための戦略的策定」	テーマ:「SDGsの時代における損害保険業界の役割と課題」
9. 講師	損保総研専任講師、損害保険会社(含、協会)から選出された職員、および業界外特別講師(大学教授等)が講師を務める。		
10. 言語	英語(海外セミナーでは、開催都市により、英語または日本語での講義を、各現地語に通訳することがある。)		

〈参考：これまでの海外セミナー開催地〉

第1回：1993年香港(80名)、バンコク(90名)
第5回：1997年北京(120名)、上海(75名)
第9回：2002年北京(126名)、上海(86名)
第13回：2006年ブンペイ(140名)
第17回：2010年マニラ(125名)、ウランバートル(76名)
第21回：2014年バンコク(246名)
第25回：2018年ヤンゴン(130名)
第29回：2023年ビエンチャン(45名)(オンライン)

第2回：1994年ケラランプール(96名)、シンガポール(65名)
第6回：1998年ハノイ(60名)、ヤンゴン(90名)
第10回：2003年ソウル(97名)、台北(121名)
第14回：2007年バンコク(110名)、ケラランプール(91名)
第18回：2011年ジャカルタ(220名)
第22回：2015年マニラ(253名)
第26回：2019年バンコク(280名)
第30回：2024年ブンペイ(120名)

第3回：1995年ジャカルタ(120名)、マニラ(70名)
第7回：1999年シンガポール(127名)
第11回：2004年ジャカルタ(221名)、マニラ(107名)
第15回：2008年ソウル(115名)、台北(120名)
第19回：2012年ヤンゴン(95名)、ブンペイ(175名)
第23回：2016年ヤンゴン(219名)
第27回：2020年ハノイ(165名)(オンライン)
第31回：2025年マニラ(107名)

第4回：1996年台北(114名)、ソウル(91名)
第8回：2001年バンコク(130名)、ケラランプール(90名)
第12回：2005年ハノイ(118名)、ホーチミン(90名)
第16回：2009年ハノイ(121名)、ホーチミン(118名)
第20回：2013年ハノイ(205名)、ホーチミン(110名)
第24回：2017年ジャカルタ(166名)
第28回：2021年ジャカルタ(300名)(オンライン)
第32回：2026年ハノイ(120名)

ISJ Overseas Seminar in Hanoi

- Date : Tuesday, February 3, 2026
- Venue : Hotel du Parc Hanoi (ハノイ)
- Theme: The Role and Challenges for the General Insurance Industry in an Era of SDGs (SDGs の時代における損害保険業界の役割と課題)

Time	Agenda	Lecturer
08:30 - 09:00	Reception	
09:00 - 09:40	Opening Ceremony	Mr. Hisakazu O'CHI, Executive Director The General Insurance Association of Japan (GIAJ) (損保協会専務理事・大知 久一) Mr. Nguyễn Xuân Việt, Chairman Insurance Association of Vietnam (IAV) (ベトナム保険協会長・グエン・スイアン・ヴィエト氏) H.E. Mr. Naoki ITO, the Ambassador of Japan to Vietnam Embassy of Japan in Vietnam (在ベトナム日本国特命全権大使 伊藤直樹 閣下)
09:40 -10:25	(1) ORSA for Enterprise Risk Management Purpose (ERM (統合的リスク管理) のための ORSA (保険会社におけるリスクとソルベンシーの自己評価))	Mr. Yosuke GOTO Deputy Director, Insurance Business Division, Supervision Bureau Financial Services Agency (JFSA) (金融庁・監督局保険課課長補佐・後藤 陽介氏)
10:25 -10:40	Q&A for (1)	
10:40 -11:00	Coffee Break	
11:00 -11:45	(2) The Environment Surrounding Electric Vehicle Markets and the Response of the non-life insurance companies in Japan (EV (電気自動車) 市場を取り巻く環境と日本の損害保険会社の対応)	Mr. Hiroya MURATA Unit Leader, Automobile Insurance Group, Personal Lines Underwriting Dept. Tokio Marine & Nichido Fire Insurance Co., Ltd. (東京海上日動社・個人商品業務部自動車グループユニットリーダー・村田 祐哉氏)
11:45 -12:00	Q&A for (2)	
12:00 -13:30	Lunch Break	

13:30 -14:15	(3) Nuclear Energy Insurance (原子力保険)	Mr. Yasuteru TAKAMI Deputy General Manager The Japan Atomic Energy Insurance Pool (JAEIP) (日本原子力保険プール・事務局局長代理・高見 保輝 氏)
14:15 -14:30	Q&A for (3)	
14:30 -15:15	(4) Significance of Industrywide Databases and their Utilization by Insurance Companies (業界ベースのデータベースの重要性と保険会社の活用)	Ms. Chihiro KUROIWA Deputy Manager, Product Management Group, Automobile Lines Department Sompo Japan Insurance Inc. (損保ジャパン社・自動車保険業務部商品管理グループ 主任・黒岩 千尋氏)
15:15 -15:30	Q&A for (4)	
15:30 -15:50	<i>Coffee Break</i>	
15:50 -16:35	(5) Efforts to Reduce the Protection Gap against Natural Disasters (自然災害に対するプロテクションギャップの解消に向けた保険会社の取組)	Mr. Yohei HONDA Product Pricing & Profit Administration Section, Products and Services Planning Dept. Mitsui Sumitomo Insurance Co., Ltd. (三井住友海上社・商品・サービス企画部料率収益チーム・ 本田 洋平氏)
16:35 -16:50	Q&A for (5)	
16:50 -	Closing Address	Mr. Hiroyuki GOTOH President The General Insurance Institute of Japan (GIIJ) (損保総研理事長・後藤 浩之氏) Mr. Bui Gia Anh Secretary General Insurance Association of Vietnam (IAV) (ベトナム保険協会事務局長・ブイ・ザー・アン氏)